



2022年度（2023年3月期）

決算補足説明資料

2023年5月11日

ぴあ株式会社

東京証券取引所プライム市場

証券コード：4337

[1] 2022年度 業績の概要

1)決算のポイント

2)業績(短信ダイジェスト)

[2] 2023年度 業績予想及び配当予想

[3] 中期経営計画(2023～2025年度)の骨子

[4] 2022年度の主な取り組み



1) 決算のポイント

- ・ 集客エンタテインメント市場は、コロナ禍の収束に伴い明らかに復調。特に、下半期は、エンタメ活動への反動消費もあり、音楽公演の全国ツアーや大規模フェス、プロスポーツの国際大会等の大型案件が続々と開催。
- ・ 市場回復に加え、公演数の増加、単価の上昇等によりチケット販売も好調。「ぴあアリーナMM」の稼働率も復調、出版商品の好調も併せ、旧基準での売上高は2,000億円規模となり、過去最高だった2018年度の1,799億69百万円を上回る高水準に。
- ・ 創業50周年を記念して、約8千名を無料ご招待したぴあアリーナMMでの記念イベントの開催費用や、チケット販売の回復に伴う各種費用も増加したが、営業利益・経常利益は、2022年11月10日に公表済みの業績予想通りに黒字にて着地。当期利益は、後述の特別利益等もあり、過去最高益を計上。
- ・ 連結子会社「ぴあネクストスコープ株式会社」の当社保有株式の一部を、株式会社朝日新聞社及び日本アジア投資株式会社に譲渡したことに伴う特別利益6億78百万円を2022年8月に計上。社名も「ぴあ朝日ネクストスコープ株式会社」に変更。


【連結】 前年比較

[単位:百万円]

	前年度	2022年度	前年比
売上高	25,829	32,763	126.8%
営業利益	△833	820	—%
経常利益	△845	600	—%
親会社株主に帰属する 当期利益	△1,122	1,415	—%



2) 業績(短信ダイジェスト) ② 連結損益計算書(要約)

[単位:百万円]

	【前年度】	【2022年度】	【前年度差】
売上高	25,829	32,763	+6,934
売上原価	17,483	20,811	+3,328
差引売上総利益	8,345	11,952	+3,607
販管費	9,179	11,132	+1,953
営業利益	△833	820	+1,653
営業外収益	513	197	△316
営業外費用	525	416	△109
経常利益	△845	600	+1,445
特別利益	—	678	+678
特別損失	471	29	△442
税金等調整前当期純利益	△1,317	1,250	+2,567
法人税等合計及び非支配株主利益	△191	△165	+26
親会社株主に帰属する当期純利益	△1,122	1,415	+2,537
包括利益	△1,104	1,449	+2,553

2) 業績(短信ダイジェスト) ③ 連結貸借対照表(要約)

[単位:百万円]

資産の部		
	【前年度】	【2022年度】
現預金	24,361	26,356
売掛金	15,716	21,612
商品等	78	77
その他	2,697	3,315
流動資産：前年度比8,508増加		
流動資産	42,852	51,360
有形固定	12,258	12,660
無形固定	5,537	6,143
投資その他	3,949	4,634
固定資産：前年度比1,692増加		
固定資産	21,746	23,438
資産合計	64,598	74,798

負債の部		
	【前年度】	【2022年度】
流動負債：前年度比17,702増加		
流動負債	38,732	56,434
固定負債	23,058	14,009
負債合計	61,791	70,443
純資産の部		
資本金	5,942	5,962
資本剰余金	2,105	2,128
利益剰余金	△4,999	△3,583
自己株式	△216	△166
他包括利益	△23	10
非支配株主持分	-	3
純資産合計	2,807	4,354
負債純資産合計	64,598	74,798



[単位:百万円]

	【前年】	【2022年度】	【前年度比】
税引き前当期利益	△1,317	1,250	+2,567
減価償却費	2,607	2,354	△253
売上債権の増減	△5,266	△5,891	△625
仕入債務の増減	13,143	11,565	△1,578
その他	3,574	384	△3,190
利息・税金等	318	△307	△625
営業キャッシュ・フロー	13,058	9,355	△3,703
無形固定資産の取得	△2,452	△2,233	+219
その他	△249	△1,331	△1,082
投資キャッシュ・フロー	△2,701	△3,564	△863
財務キャッシュ・フロー	△1,132	△3,797	△2,665
キャッシュの増減	9,225	1,994	△7,231

[2] 2023年度 業績予想及び配当予想

- ・ 2023年度(2024年3月期)の当社業績は、売上高330億円、営業利益12億円、経常利益10億円、親会社株主に帰属する当期純利益9億円を想定。
- ・ 利益配分については、将来の事業拡大と財務体質強化のための内部留保を確保しつつも、安定した配当を継続していくことを基本方針に、2017年度より、「配当政策」「自己株式の取得」「株主優待」の総還元性向40%を目安とし、連結での配当性向は、同じく30%程度を目安に設定。
- ・ 2022年度は営業損益の黒字転換を達成したものの、コロナ禍の影響による2期連続の最終損益赤字による累損の解消には至らず、大変遺憾ながら当期配当は無配とさせていただかざるをえない状況。次期の配当予想については、内部留保を積み上げ、配当可能な諸条件が整った段階で、改めて公表予定。
- ・ 今後、基幹事業および新たな事業によって収益基盤を強靱化し、コロナ禍で生じた累損の解消、及び中期経営計画(~2025年度)期間中の復配の実現を目指す。

[3] 中期経営計画(2023~2025年度)の骨子



◆次の10年を見据えた長期ビジョンを構想中。 さらなる“変身”を加速させるべく、3ヶ年中期経営計画を策定

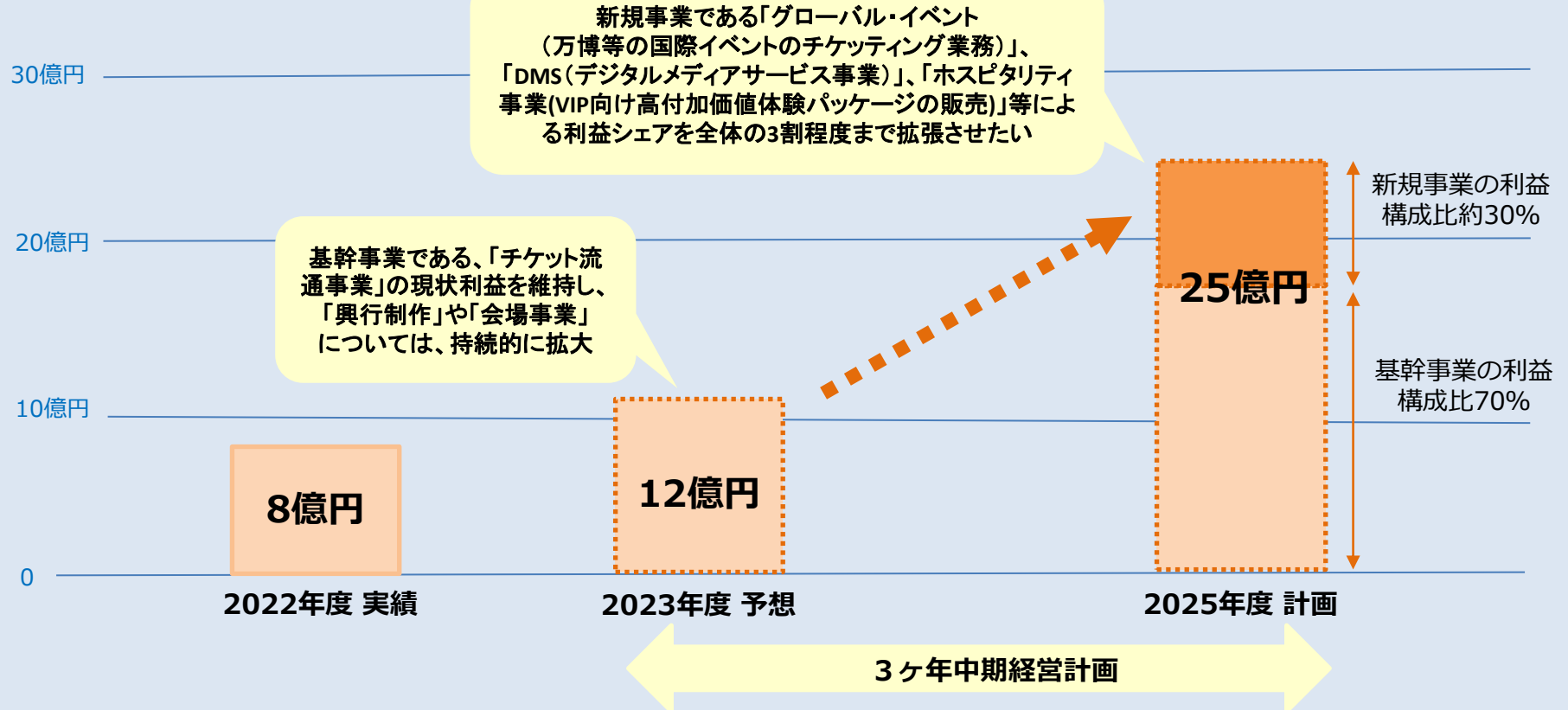
- ・創業50周年を経て、当社を取り巻く環境変化を見据え、テクノロジーの進化と当社の強みを生かした長期(10年)ビジョンの策定にも着手。現在の事業を拡充しつつ、新規事業の創出にも注力することを軸とした、3ヶ年の中期経営計画を策定。
- ・基幹事業群(チケット流通を中核としたバリューチェーン事業)の収益基盤の強化により、コロナ禍で生じた累損の解消、および中期経営計画期間中での復配の実現を目指すとともに、チケット流通に次ぐ事業の柱となりうる新たな事業群の創出と育成により、持続的成長が可能な事業構造を構築する。
- ・基幹事業群のチケット流通、興行制作、会場事業の拡大と並行し、「グローバル・イベント(万博等の国際イベントのチケットティング業務)」、「DMS(デジタルメディアサービス事業)」、「ホスピタリティ事業(VIP向け高付加価値体験パッケージの販売)」等の新事業を着実に成長させ、グループ全体の利益の最大化を目指す。事業構造改革と経営基盤の強化を進め、最終年度には、新規事業群の占める利益シェアを約3割程度まで拡張させたい考え。

[3] 中期経営計画(2023~2025年度)の骨子



新規事業の創出及び育成、構造改革を重ね、中期経営計画の最終年度(2025年度)の営業利益は、2023年度から約倍増の25億円水準を目指す。基幹事業約7割、新規事業約3割の利益構成を想定し、2025年度中には累損解消の見込み。

【営業利益目標の推移】



[4]2022年度の主な取り組み

～ぴあ創業50周年プロジェクト～



◆創業50周年感謝セレモニーをぴあアリーナMMで開催 (2022年11月17日)

株主様とそのお連れ様約4,000名をはじめ、ぴあカード会員様、ぴあアプリユーザー様、お取引先様、従業員と家族など、約8,000名をご招待。



矢内よりご挨拶



布袋寅泰



小六禮次郎、倍賞千恵子



会場となったぴあアリーナMM

◆創業50周年記念サイト、記念ムービーを公開

ぴあの50年の歩みを時代とともに振り返る、約20分の動画が完成。



<https://w.pia.jp/a/50th-movie/>

◆社長・矢内廣 自伝『岩は、動く。』を発刊



生い立ち、情報誌『ぴあ』の創刊、「チケットぴあ」のスタート、幾度と経験した経営危機のエピソードや発明の原点などを綴った初の自伝。

◆創業50周年記念興行を開催

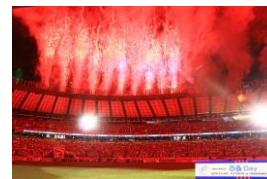
50周年を迎え、全国各地の方に感謝の気持ちを伝えるべく、多数の主催イベントを開催。



【兵庫】宝塚大劇場公演
グランドミュージカル『蒼穹の昴』
ぴあ創業50周年記念
ハロウィンスペシャル
貸切公演



【福岡】パ・リーグ「ぴあDAY」
ホークス vs ライオンズ



【東京】J1リーグ FC東京vs
横浜F・マリノス「ぴあDay」

[4]2022年度の主な取り組み

～主催・協賛イベント～



◆2022年度は、ぴあ創業50周年を記念した主催イベントも多数開催

当社ならではのバリューチェーンやイベント企画制作ノウハウを活かし、あらゆるジャンルの主催公演や出資イベントを展開。



浦和レッズ×パンのフェス
2022 in 埼玉スタジアム
2002



浅田真央アイスショー
「BEYOND」



tvk・ぴあ 50th anniversary
LIVE 2022 ～感謝のカタチ～



Designed by SwimmyDesignLab

YOKOHAMA MUSIC
HARBOR 2022
CHRISTMAS



(c)2022 METROCK All Rights Reserved

TOKYO・OSAKA
METROPOLITAN ROCK
FESTIVAL 2022



©日刊スポーツ新聞社

神宮外苑花火大会



Photo：深野輝美

PIA MUSIC
COMPLEX 2022
-ぴあフェス-



ぴあ演劇学校

[4]2022年度の主な取り組み

～メディアコンテンツ展開～



◆大ベストセラーが登場。話題の書籍・MOOKも、様々なジャンルで多数刊行



60万部
(電子書籍含む)



12万部

『不可能を可能にする 大谷翔平120の思考』



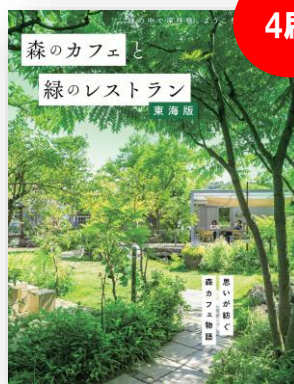
重版

『羽生結弦語録 II』



重版

『まるごとぜんぶ町田の本』



4刷

『森のカフェと緑のレストラン 東海版』



3刷

『スゴイ!公園本 東海版』



重版

『Denny'sぴあ』

「オリコン」「楽天ブックス」「TSU TAYA」で年間売上1位の三冠を達成！ジェイソン氏流の軽快な語り口や自身の経験を踏まえた実例、見やすいグラフなどで、すぐに取り入れたい投資術をわかりやすくレクチャー。

[4]2022年度の主な取り組み

～業務・資本提携による連携の強化～



◆ぴあ朝日ネクストスコープ株式会社(PANX)として、各種事業を展開

ぴあのDMP(PIA DMP)と朝日新聞社のDMP(A-TANK)を活用した、広告配信およびマーケティング事業、「チケットぴあ」サイトにおける広告事業などを展開。多種多様なデータとメディアを軸にしたマーケティング力と営業力を強みに、これまで世の中になかった独自の価値を生み出し、事業成長の最大化を目指す。



会員ID数

約1,750万人

チケット販売数

約7,500万枚/年

データ蓄積

約1.4億UB



朝日新聞社

会員ID数

約550万人

WEB訪問者

約5,000万UB/月

運営メディア数

30媒体以上



ぴあ朝日ネクストスコープ株式会社



PIA ASAHI Next Scope

[4]2022年度の主な取り組み

～ホスピタリティ事業への参入～



◆スイス・DAIMANI社への業務資本提携により ホスピタリティ事業の合併会社設立

日本・アジアの集客エンタメ業界におけるホスピタリティ文化の創出事業に参入。DAIMANI社と「PIA DAIMANI HOSPITALITY EXPERIENCE(PDHX)社」を設立、グローバル基準で「VIP向け高付加価値体験パッケージ」のサービスを開発。業界を支える新事業に育て、集客エンタメ業界の活性化とユーザー拡大を目指す。



スイス・DAIMANI社は、欧米で広くVIP向けホスピタリティ事業を展開

◆ぴあ初の公式ホスピタリティチケットが登場 「NTTジャパンラグビーリーグワン2022-23 プレーオフトーナメント 決勝」

ゴールド、シルバー、ブロンズの3種類のホスピタリティチケットを発売、特別な観戦体験を演出する。各チケット専用のVIPラウンジで食事やドリンクが提供され、それぞれのチケットごとに、オリジナルPASS、ミニトークショー、ラウンジへの選手訪問、試合終了後のピッチ見学などの特典プランを用意。ビジネスシーンでの活用や、特別な記念日での利用も想定。



▼「チケットぴあ」にて一般発売中



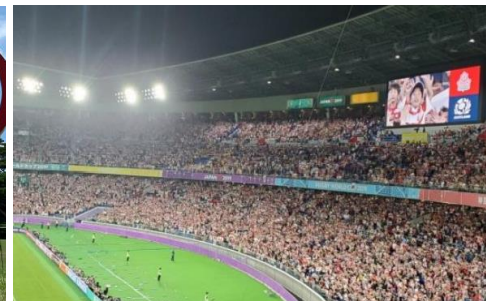
※画像はイメージです

[4]2022年度の主な取り組み

～グローバル展開～



◆グローバル事業の強化に向け、「ラグビーW杯」「東京2020オリンピック・パラリンピック」の経験を踏まえた新組織をスタート



◆2025年日本国際博覧会 (大阪・関西万博)の入場 券販売関連システムサー ビス提供業務を受託



大阪・関西万博の会場として
開発中の人工島・夢洲(ゆめしま)

◆大人気のタイ俳優による主催イベントが好調。 今後もタイ関連イベントが続々開催予定

タイドラマ旋風を巻き起こした「2gether」の主演俳優、BrightとWinによるオンライン・ファンミーティングの主催(2021年)を皮切りに、昨年度もぴあアリーナMMで「GMMTV FAN FEST 2022 LIVE IN JAPAN」(2022年8月)、「Shooting Star Asia Tour in JAPAN」(2023年3月)など、さまざまな主催イベントを開催。毎回ほぼ完売となる人気ぶりで、今後も数多く企画中。



[4]2022年度の主な取り組み

～持続可能な社会に向けて：ぴあ総研～



◆ぴあ総研、2回目のシンポジウムを開催。 「文化芸術・集客エンタメの発展」をSDGs 18番目の目標として提言

2022年5月に初開催となったぴあ総研シンポジウムに続き、今年5/31(水)には各界の識者を招き、第2回となるシンポジウム「文化芸術・集客エンタメは、人々と社会をどう豊かにできるのか」を開催予定。

SDGsの17項目には、「文化芸術」に関する目標が直接的に語られていないことから、ぴあ総研では、その18番目の目標として「文化芸術、エンタテインメント、スポーツの必要性」を掲げ、心豊かな暮らしと社会のために、あらゆる人々の「文化」的活動を強化・支援することを提言。

【SDGs 18番目の目標】
Making Life and Society rich with Art, Culture, Entertainment and Sports.
文化芸術・エンタテインメント・スポーツで、心豊かな暮らしと社会を。

SDGsの17項目には、「文化芸術」に関する目標が直接的に語られていません。ぴあ総研では、世界の多様な「文化芸術」の共存・共生こそが、サステナビリティの標準をなすという考えに基づき、18番目の目標として「文化芸術をはじめとして、エンタテインメント、スポーツの必要性」を掲げ、心豊かな暮らしと社会のために、あらゆる人々の「文化」的活動を強化・支援することを提言します。それが、人々の相互理解やコミュニケーションを深め、ダイバーシティやインクルーシブな社会構築、世界平和への共感の促進にもなるものと考えているからです。本シンポジウムが、その議論の端緒となれば幸甚です。

文化芸術・集客エンタメは、人々と社会をどう豊かにできるのか

ぴあ総研主催シンポジウム

文化芸術・集客エンタメは、SDGs 18番目の目標になりうるのか？

01 シンポジウムの趣旨および、ぴあ総研年間活動報告

- ・ぴあ総研 & 日本政策投資銀行による共同研究の進捗
- ・ぴあ総研 & 香川大学による共同研究の取り組みほか

吉澤優幸
日本政策投資銀行 文化芸術・エンタテインメント部 部長

02 基調講演 I

SDGsの18番目に文化芸術・集客エンタメに関する新項目を

都倉俊一氏
文化庁 長官

03 基調講演 II

文化芸術・集客エンタメの本質的価値とは何か～脳科学の視点から～

茂木健一郎氏
脳科学者

04 パネルディスカッション

文化芸術・集客エンタメは、SDGs 18番目の目標になりうるか？

 船橋貴氏 <small>ナレッジエイト 代表取締役</small>	 村井清氏 <small>日本フーズ・マーケティング 専任マネージャー</small>	 北川フラム氏 <small>アーティスト</small>
 里中満智子氏 <small>マツダの学、大塚田舎大学 教授</small>	 野村萬壽氏 <small>作家</small>	 笹井裕子 <small>ぴあ総研 研究開発部 部長</small>

ご招待
(参加費無料)

お申し込みは、要領書を
ご覧ください

2023.5.31 [水] 13:30→17:00 13:00開場 会場:丸ビルホール



ぴあ総研では、年に一度の『ライブ・エンタテインメント白書』の調査・発行のほか、集客エンタメ産業関連のさまざまな市場動向を随時発表

[4]2022年度の主な取り組み

～持続可能な社会に向けて：PFF～



新しい才能の発見と育成を目指し、1977年よりスタートしたPFFは、44年の継続を経て、180人以上のプロの映画監督を輩出

▶「第44回ぴあフィルムフェスティバル (PFF)」を東京・京都で開催



▶「第4回大島渚賞」山崎樹一郎監督に授与

若手映画監督を世界へ飛躍させるための賞「大島渚賞」の記念上映会と授賞式を開催(2023年4月)



第1回授賞式(2020年)でスピーチする、故・坂本龍一審査員長

▶PFFスカラシップ作品が、続々と海外映画祭へ

第26回PFFスカラシップ作品
「すべての夜を思いだす」



ベルリン映画祭に正式出品、北京国際映画祭・新人コンペ部門で審査員特別表彰

◀清原惟監督

第27回PFFスカラシップ作品
「裸足で鳴らしてみせろ」



ジョグジャNETPAC
アジア映画祭で受賞

◀工藤梨穂監督

[4]2022年度の主な取り組み

～持続可能な社会に向けて：チームスマイル～



◆「チームスマイル」が活動を終了。4つのPITで「感謝の会」を開催

2011年の震災直後より、被災地での復興支援を続けてきたチームスマイル活動は、2022年をもって11年間の活動を終了。様々な形でサポートいただいたアーティストを招き、支えて下さった方々に感謝を伝える「感謝の会」を4つのPITで開催。

「仙台PIT」

岸谷香
CHEMISTRY
ゴスペラーズ
一青窈
水谷千重子
宮沢和史
の出演による
ライブも同日開催
(2023年3月)
(撮影：吉岡希鼓斗)



「釜石PIT」

感謝の会に先立ち、
布袋寅泰ライブを
開催、市長をはじめ
地元の皆様も
多数来場
(2022年11月)
(撮影：西条佳泰
Grafica Inc.)

「いわきPIT」

感謝の会に
倍賞千恵子
小六禮次郎
がゲストで登場
ミニコンサートを
開催
(2022年10月)



「豊洲PIT」

感謝の会に
岸谷香がゲストで
登場し、
『M』と
『DIAMONDS』
を披露
(2023年3月)
(撮影：吉岡希鼓斗)

※4つのPITは、そのままの名称で今後も継承され、「豊洲PIT」と「仙台PIT」は、当社の所有ホールとして今後も運営を継続。